TAD Letter

DOKI-DOKI 05

富山県美術館
Toyama Prefectural Museum of Art and Design

EXHIBITION 1

三沢厚彦 ANIMALS IN TOYAMA

「三沢厚彦 ANIMALS IN TOYAMA」ポスター
（Design：TSDO Inc.）

三沢厚彦（1961〜）は、2000年からゾウやキリンなどの動物をモチーフとした彫刻「ANIMALS（アニマルズ）」シリーズを発表しています。樟（クスノキ）を使い、ほぼ等身大に彫り込み彩色をした木彫は、見るものの記憶やイメージを喚起させ、圧倒的な存在感を放っています。近年ではユニコーンや麒麟など空想上の動物にも挑戦し、生のリアリティを追求しています。富山県美術館（TAD）には、2016年の建設段階から制作を依頼し、昨年の開館時より、屋外広場、屋上に恒久設置されている三沢作品があり、立山開山伝説にも触発された作品で、TADのアイドルとして愛されています。本展では、立山をテーマとする新作プロジェクト「アニマルハウス* イン トヤマ」（3・4頁参照ください）も加わり、代表作「アニマルズ」の彫刻、絵画、素描を一堂に紹介しています。

*2017年秋に開催された「三沢厚彦 アニマルハウス 謎の館」展。渋谷区立松濤美術館を舞台に、三沢厚彦氏のアニマルズのもと、舟越桂氏（彫刻家）、小林正人氏（画家）、杉戸洋氏（画家）、浅田政志氏（写真家）が集い、創作活動が展開され、大きな話題になった展覧会。

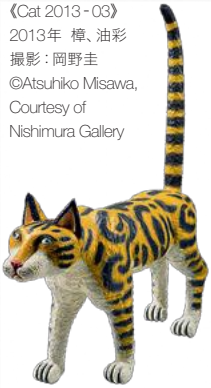
作品紹介

《Animal 2005 - 05》
2005年 樟、油彩
撮影：内田芳孝
©Atsuhiko Misawa,
Courtesy of Nishimura Gallery

《Animal 2010 - 01》
2010年 樟、油彩
撮影：永野雅子
©Atsuhiko Misawa,
Courtesy of Nishimura Gallery

《Animal 2016 - 01》
2016年　樟、油彩
撮影：渡邊郁弘
©Atsuhiko Misawa,
Courtesy of
Nishimura Gallery

《Animal 2006 - 08》2006年
樟、油彩　撮影：内田芳孝
©Atsuhiko Misawa,
Courtesy of Nishimura Gallery



《Cat 2013 - 03》
2013年　樟、油彩
撮影：岡野圭
©Atsuhiko Misawa,
Courtesy of
Nishimura Gallery

開催概要

●会期：10月20日（土）～12月25日（火）休館日＝毎週水曜日　●会場：富山県美術館2階 展示室2、3、4
●主催：三沢厚彦展実行委員会（富山県美術館、北日本放送）　●後援：朝日新聞富山総局、北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞、毎日新聞富山支局、読売新聞北陸支社　●協力：西村画廊、アニマルハウス、山口製材株式会社、小山登美夫ギャラリー、シュウゴアーツ
●展示協力：小田原文化財団　●協賛：富山県民共済、北陸電気工事、三進堂、ホテルグランテラス富山
●観覧料：一般1,300円（1,000円）／大学生700円（500円）／高校生以下無料　※（ ）内は20名以上の団体料金

関連イベント

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

❶ スペシャル対談

スペシャルゲストと三沢さんが「アニマルズ」についてお話しします。

3．舟越桂（彫刻家）

●日時：2018年12月2日（日）15:00～（約90分）

●会場：3階ホール／定員120名（事前申込制〔*締切日は終了しており、抽選にて整理券を発行しておりますが、整理券をお持ちでない方は、開演5分前に空席がある場合、聴講いただけます。隣の図書コーナーにて会場内の映像と音声を配信いたしますので、会場に入れなかった場合でも当日の聴講が可能です。〕／参加には当日有効の「三沢厚彦展」観覧券、整理券が必要です）

❷ アーティストトーク　三沢厚彦

●日時：2018年12月25日（火）15:00～（約60分）

●集合場所：2階ホワイエ（事前申し込み不要／当日有効の「三沢厚彦展」観覧券が必要です）

❸ 公開制作　三沢厚彦×舟越桂 「粘土で首像をつくる」

●日時：2018年12月1日（土）15:00～（約60分）

●会場：2階ホワイエ／定員60名（当日先着順／当日有効の「三沢厚彦展」観覧券が必要です）

❹ 学芸員によるギャラリートーク

●日時：2018年12月15日（土）15:00～（約60分）

●会場：2階展示室2、3、4（当日有効の「三沢厚彦展」観覧券が必要です）　※展示室4にお集まりください。（事前申し込み不要）

EXHIBITION 2

メイキング「アニマルハウス　イン　トヤマ」

「三沢厚彦 ANIMALS IN TOYAMA」の見所のひとつは新作の「アニマルハウス　イン　トヤマ」。三沢さんと親交の深いアーティストの舟越桂さん（彫刻家）、小林正人さん（画家）、杉戸洋さん（画家）、浅田政志さん（写真家）に協力していただき、アイデアから作品制作、現場での設営まで、共同制作での新作発表となりました。

「アニマルハウス」のプロジェクトは、昨年10月に渋谷区立松濤美術館で開催され、三沢さんの「アニマルズ」のもと、国内外で活躍する5人のアーティストによる大規模な滞在制作が、会期中絶え間なく展開されていったことで注目を集めました。白井晟一による個性的な建築空間により、松濤美術館は「謎の館」がテーマでしたが、ここ富山では立山をテーマに、三沢さんから富山や立山への想いを聞き、新しいTADでしかない面白い試みをやろうと、プロジェクトが始まりました。

三沢さんの2度にわたる立山調査を経て、9月には三沢さんと杉戸さんが立山の室堂、立山博物館を視察。途中に立ち寄ったコンビニエンスストア「立山サンダーバード」のディスプレイに刺激を受けつつ、荘厳とした立山の自然と「立山開山伝説」の歴史に触れました。三沢アトリエでの杉戸さんとの共同制作を経て、10月4日には、立山登山をテーマに浅田さんによる各ポートレートの撮影。山口製材の一角を山小屋風の場所に仕立て、小道具には立山カルデラ博物

1.制作風景（三沢さん）

2.制作風景（舟越さん）

3.制作風景（小林さん〔左〕と杉戸さん〔右〕）

4.制作風景（浅田さん）

1〜4撮影：浅田政志

館などからお借りしたクマの毛皮などを準備し、それぞれが立山登山に関わる個性的なキャラクターを想定したモノクロームの世界を演じました。
展覧会開会までいよいよ2週間前。4トントラック8台、2トントラック4台と大容量の「アニマルズ」作品集荷、搬入、展示となりました。三沢さんの代表作「アニマルズ」の設営、照明を同時並行で仕上げながら、最終日まで残り5日の10月15日から19日までの滞在制作では、杉戸さんによる11mもの立山を描いた大作絵画とニホンカモシカやライチョウなどの「アニマルズ」を設営。その上に、油絵、ドローイング、彫刻などが取り付けられます。舟越さんの静謐な観音像、小林さんの生命力あるニホンカモシカの油彩画、浅田さんのユニークな各ポートレートと、それぞれが「アニマルハウス イン トヤマ」をつくり上げました。創作の音だけが響く静かな時間あり、意見を交わす時間あり、新作前で浅田さんによる集合写真の撮影で完成となりました。

5.新作「アニマルハウス イン トヤマ」の前で。
左から、三沢さん、舟越さん、小林さん、杉戸さん　撮影：三沢里彩

10月27日の三沢さんとの対談で小説家の天童荒太さんはアニマルハウスのプロジェクトについて、「これまでの創作の蓄積の上に現れた、即興性の魅力」と語られましたが、アーティスト同士の競演だからこそ生み出された作品は、新しい何かを創り出すこと—創作の自由さ、楽しさにあふれています。

（普及課長　学芸員　麻生　恵子）

COLUMN 3

全面開館1周年を迎えて

去る8月26日、富山県美術館は全面開館からちょうど1周年を迎えました。この1年間を振り返ってみて何よりも驚くのは、入館者が飛躍的にふえたことです。昨年3月末の一部開館にまでさかのぼって数えると、180万人に達します。それに関連して目を引くのは、来館者の層が大きく広がったことです。若いカップル、小さなお子さんのいる家族連れ、幼稚園や保育園の幼児たち、ハンディキャップをかかえる人、元気なお年寄り、遠方から観光バスで来られた団体客、外国人客など、本当に多くの人に楽しんでいただいています。
立山連峰の雄大なパノラマを背景に、「オノマトペの屋上」で疲れを知らず無心に遊ぶ子どもたち、その姿を見ていると、一抹の感動をおぼえます。

屋上庭園の「ふわふわ」で遊ぶ親子

この子たちもいつの日か、ここが美術館だと気づいてくれるでしょう。アートの力をからだ全体で吸収してください。楽しい思い出をたくさんつくって下さい。皆さんと日々ともに呼吸する美術館でありたいと、私は思います。　（館長　雪山　行二）

ATELIER 4

○オープンラボ（土日祝）

「ねんどで いろいろ　ポーズ・アニマルズ！」

●開催日：11月23日（祝・金）、12月1日（土）、2日（日）、
9日（日）、16日（日）　※水色の日は午前中のみ開催予定
●活動時間：10:00〜12:00、14:00〜16:00
●会場：富山県美術館3階ラボ（アトリエ内）●参加費：無料

「クリスマス スペシャル サンクス
オープン・ラボ 企画
帰ってきた！パッとこっぱで動物をつくろう
〜スタンディングアニマルズの世界〜」

●開催日：12月22日（土）〜24日（振替・月）
●活動時間：10:00〜12:00、14:00〜16:00
●会場：富山県美術館3階ラボ（アトリエ内）●参加費：無料
＊詳細は後日告知いたします。
当館webまたはSNSでのお知らせをご確認下さい。

○オープンラボ（平日）

「TAD出張版　らいちょう願い箱」

●会期：10月25日（木）〜2019年1月11日（金）の平日に実施
●活動時間：10:00〜16:00　※お昼休み12:00〜13:30
●会場：富山県美術館3階ラボ（アトリエ内）●参加費：無料
※学校団体の施設利用や、その他のイベントがある場合はお休みします。
随時当館WEBサイトやSNSをご確認ください。

INFORMATION 5

富山県美術館の展覧会スケジュール

START☆みんなのミュージアム2019

●会期：2019年1月19日（土）〜2月24日（日）●会場：富山県美術館 2階展示室3、4

近隣美術館の展覧会スケジュール

【ギャルリ・ミレー】　『近代社会と人間』　●会期：2019年1月14日（祝・月）まで
『米田雪子　作品展』　●会期：2019年2月11日（祝・月）まで

【高志の国文学館】　『生誕100年記念特別展「堀田善衛―世界の水平線を見つめて」』　●会期：2018年12月17日（月）まで
『北の命の物語展 「倉本聰と点描画」』　●会期：2019年1月6日（日）〜3月4日（月）

【富山県水墨美術館】　『驚異の超絶技巧！　―明治工芸から現代アートへ―』　●2018年12月24日（休・月）まで
『老当益壮の画人たち　愉しきかな！人生』　●会期：2019年1月11日（金）〜2月17日（日）まで

【富山市ガラス美術館】『富山ガラス大賞展2018』　●会期：2018年11月25日（日）まで
『ジブリの大博覧会　〜ナウシカからマーニーまで〜』　●会期：2018年12月8日（土）〜2019年2月24日（日）

【森記念秋水美術館】　『現代刀職展　〜今に伝わるいにしえの技』　●会期：2018年11月23日（祝・金）〜12月16日（日）
『森記念秋水美術館　所蔵品展（仮題）』　●会期：2018年12月21日（金）〜2019年2月24日（日）

【樂翠亭美術館】　『対話する金属 長谷川竹次郎の世界』　●会期：2018年12月4日（火）まで

【金沢21世紀美術館】『東アジア文化都市2018金沢　コア事業連帯企画　チウ・ジージエ　書くことに生きる』　●会期：2019年3月3日（日）まで
『アペルト09　西村有』　●2019年3月24日（日）まで
『lab.3 DeathLAB：死を民主化せよ』　●会期：2019年3月24日（日）まで
『コレクション展　アジアの風景 / 粟津潔、マクリヒロゲル5』　●2019年5月6日（休・月）まで

プロムナードイベントレポート
「お月見影絵パフォーマンス」
9月24日（月・振休）

プロムナードイベント第5弾は、富山市在住のアメリカ人、ジャック・リー・ランダルさんの影絵パフォーマンス。環水公園内のプロムナードを会場に17:00〜18:00まで2回の公演を実施しました。演目は、コミカルなアレンジを加えた《赤頭巾》、お月見をテーマにした《To the Moon》、オリジナル作品《双子の木》を立山町在住のギタリスト井上孝志さんによる生演奏と共に上映し、2回の公演で155名の方々にご覧いただきました。小さなお子さんから大人まで楽しめる、夕暮れ時ならではのイベントとなりました。

「蓮沼執太　富山アンビエントをさがす」
10月28日（日）

富山マラソンと同日の10月28日、プロムナードイベントの第6弾として、ミュージシャン・アーティストとして国内外で活躍する蓮沼執太さんをお迎えし、ワークショップとパフォーマンスを開催しました。ワークショップ「散歩フィールドレコーディング」では、環水公園と美術館の周辺を散歩しながら、各所で参加者が予め決められた質問に答えるやり取りを重ね、蓮沼さんがその模様の全てを録音しました。そして続く「音と言葉のセッション」では、フィールドレコーディングの音声を軸に、詩人の大崎清夏さんがワークショップ中に書き留めた言葉や、立山開山伝説にインスピレーションを得た大崎さんの物語の朗読、そして蓮沼さんの即興演奏が一体となるセッションが行われました。参加者も加わったこのパフォーマンスは、集会のような親密な雰囲気のなか行われ、散歩の記憶が重層的なイメージの中に不思議に蘇りました。

ABOUT TAD 7

コレクション紹介

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック／ Henri de Toulouse-Lautrec ／ 1864〜1901
版画集『彼女たち』（1896 年刊）から《横たわる女、目ざめ》／紙・石版

今回、ここに紹介するのはロートレックの版画集『彼女たち（Elles）』（表紙絵、扉絵を含む12点組）の中の1葉です。ロートレックといえば、ベル・エポック期のパリで活躍したポスター画家として、《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》や《ディヴァン・ジャポネ》、《ジャヌ・アヴリル》などの一連のポスターを思い浮かべる人も多いと思います。広い色面の大胆な配置と少し渋めの色彩効果、誇張した人物表現とが相まって、魅力的なポスターの数々を制作しました。また商業広告ポスターをファイン・アートへと一挙に押し上げたのも、ロートレックによるところ大といえます。

ポスターは、街の雑踏の中、行き交う人々の視線を引きつけなければいけません。少々誇張した表現も必要となります。そのためにポスターではロートレック芸術の神髄である線描が見えにくくなっています。でも、ポスターをよく見ると、全体をコントロールしリズムを刻んでいるのが抑揚のきいた伸びやかな輪郭線であることが分かります。まずもってロートレックは色彩画家というよりも素描（デシナトゥール）家でした。

《横たわる女、目ざめ》は線表現のみの作品です。朝の気だるい目覚めと静寂――女性の物憂げな表情とポーズから、世紀末のパリ、その前夜の、華やかな社交の場での乱痴気騒ぎと喧噪が想像できないでしょうか。ベッドや枕のフワフワとしたやわらかな質感、女性のしなやかな髪、心地よい朝の光が差し込む室内の情景も、紙の白にオリーブ・グレー1色の線描だけで表されています。

版画集『彼女たち』は、素描家ロートレックの才だけでなく、とても豊かな表現世界を見せてくれます。色面構成と装飾性、あるいはボリューム感を強調した立体表現といった様々な描画法を取り入れた作品で組まれています。この版画集の作品を一堂に並べるだけで、ロートレック芸術の表現の幅の広さと奥行きを見て取ることができます。

（副館長　杉野　秀樹）

富山県美術館（TAD）
〒930-0806　富山県富山市木場町3-20（富岩運河環水公園内）
TEL：076-431-2711　FAX：076-431-2712　http://tad-toyama.jp/
発行日：2018年11月20日

表紙：《Animal 2018-01》2018年　樟、油彩　撮影：三沢厚彦／©Atsuhiko Misawa, Courtesy of Nishimura Gallery